

「いわての復興教育推進事業（いわての復興教育スクール〈沿岸〉）」成果報告書

学校名：岩手県立山田高等学校

I 事業の概要

郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するため、3つの教育的価値（「いきる」「かかわる」「そなえる」）を基盤に据え、震災被害伝承の使命を果たす。

また、東日本大震災津波の際に受けた支援への感謝の気持ちを大切にし、支援していただいた地域との生徒交流事業等を実施するとともに、山田町役場、社会福祉協議会等と連携し、学校独自の復興教育やボランティア活動を推進する。

II 取組の概要

1 他校交流

(1) 青森県立名久井農業高等学校

- ・本校の文化祭（10月13日）に名久井農業高校の生徒を招待し、フラワーアレンジメント講習会、豊穰太鼓のパフォーマンス、花壇の整備、野菜やジャム販売を行っていただいた。昼食は、本校生徒が調理したカレーライス等を食べてもらった。以上の活動をとおして交流を図った。
- ・名久井農業高校文化祭（11月3日～4日）へ生徒10名を派遣し、復興状況の発表や山田町の物産品販売や生徒交流を実施した。
- ・名久井農業高校の収穫祭（11月5日）にも参加し、餅つきやバーベキューを食べながら交流を深めた。



名久井農業高校文化祭での交流



名久井農業高校文化祭での交流

(2) 岩手県立平舘高等学校

- ・8月19日に平舘高校生徒7名と本校ボランティア生徒5名で、「山田のいちび」で、子どもやお年寄りとのレクリエーション活動を行った。



平舘高校との「山田のいちび」ボランティア交流

(3) 北海道池田高等学校

- ・震災後交流のある池田高校吹奏楽部が山田町を訪問した際、本校でもダンス&プレイを披露した。本校吹奏楽部はパフォーマンスを鑑賞後、池田高校と一緒に「銀河鉄道999」を演奏し、交流した。



池田高校との交流

(4) 岩手県立盛岡南高等学校

・リーダー育成を目的に盛岡南高校の体育科実技発表会を見学した。生徒会役員やクラブの代表など10名が参加し、集団のまとめ方や号令のかけ方、あいさつの仕方などを中心に見学した。

(5) 岩手県立雫石高等学校

・8月29日(水)に開催した「海の運動会」に雫石高校生徒13名を招待し、一緒に競技を行い、昼食を摂った。競技後は砂浜清掃を行った。

また、本校所有のボートで、山田湾を案内し、震災当時の状況、山田湾のカキ養殖等について説明した。



「海の運動会」雫石高校との交流

2 本校独自の復興教育

(1) サマーチャレンジやまだ2018

・7月30日～8月7日の期間で、地域の小学生を本校に招き、高校生が先生役となって小学生と交流を実施。開講した教室は、科学教室、料理教室、書道教室、音楽教室、空手教室、かるた教室、夏休みの宿題教室の7講座。今年度は、山田町が力を入れる「かるた(百人一首)教室」を一般町民の皆さんと実施した。また、空手教室は、町内を訪問中だったドイツ人学生も参加して実施した。



サマーチャレンジ2018 料理教室



サマーチャレンジ2018 科学教室

(2) 各種ボランティア

・「3.11ともしびのつどい」ボランティア、保育園でのボランティア等多くの活動を実施。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 各校交流

(1) 名久井農業高等学校

・この交流事業は、東日本大震災の際、当時の名久井農業高校の先生や生徒たちが、町唯一の高校という同じ環境にある県立高校を支援したいとの思いから始まった支援交流事業である。

・双方の文化祭へ行き来することによって、名久井農業高校の生徒にとっては、フラワーアレンジメントの講師となって生徒や一般の来校者に授業で学んだ知識や技術の発表の場を得ること等ができる。本校の生徒にとっては、復興の様子を他県の支援していただいた皆様にプレゼンテーションし、感謝を伝え震災の伝承を行うことができる。また、2泊3日の農家民泊を通じて食育に対する知識の習得にも効果がある。

・課題は、名久井農業高校の予算が縮小または廃止の方向で、事業の継続が難しくなることが予想される点である。昨年度は、春にも本校を訪問し、本校生徒と共に、プランターへ花苗を植える活動も行ったが、今年度は青森県から予算措置がなくなり、春の訪問はなかった。

参加生徒感想

「山田町の震災からの復興をPower Pointで説明し、たくさんの方が山田に興味を持ってくれたのではないかと思います。その他にも、交代で模擬店のお手伝いをして、高校生や先生方ともお話できたり、名農祭に来た方とも交流できました。」(1年女子)

「文化祭では、山田の特産物を販売しました。2日間で1つの商品を除き完売しました。名久井の

生徒さんは人数が多いためお店も多く、カラオケ大会や男装女装コンテストもあり、とても盛り上がりました。

収穫感謝祭では、山高の生徒が1人ずつステージに上がり、餅つきを体験させていただきました。緊張したけど、とても貴重な体験でした。

最初は他校の文化祭は想像がつかず、とても不安でした。しかし、名久井の方々はとても人がらが良く、沢山楽しんで充実した3日間を過ごすことができました。来年の山高の文化祭では、名久井の文化祭で学んだことを活かして、もっと盛り上げられるように頑張ります。」(2年女子)

(2) 県立平館高等学校

- ・子どもたちに楽しんでもらうための人形作り等を通じ、お互いの高校生活や町の状況を話し交流を深めている。

- ・家庭クラブ活動が盛んな平館高校生と交流し刺激を受け、「いちび」活動に関し、家庭クラブ実践発表家庭クラブ連盟研究発表大会沿岸支部大会及び県大会で、『いちび』をとおして地域を盛り上げよう～私たちだからできること～と題し発表した。

- ・平館高校生は午前中、被災地及び復興現場見学、午後ボランティア交流を行っており、交流の時間が限られている。

(3) 北海道池田高等学校

- ・高いレベルのパフォーマンスに接し、刺激を受けた。また、一緒に練習し演奏することにより、初対面の高校生とコミュニケーションの取り方の良い経験となった。

特に1年生に刺激となり、練習に取り組む姿勢が変わり、積極的にコンクールや外部の練習会等に参加している。

- ・北海道の高校であり、継続した交流が難しい。

(4) 県立盛岡南高等学校

- ・本校生徒は中学校時代、生徒会やクラブ活動において、リーダーとして活躍した経験が少ない生徒がいる。他校の集団を動かすコミュニケーションや態度を学ぶことで、学校内でのリーダーの育成、将来の地域のリーダー養成に繋げたい。

- ・事前学習では、研修の目的、求められるリーダー像、見学の姿勢等を学び参加した。また、事後には感想文を書かせた。

- ・生徒の感想には、きびきびとした一体感のある動

作、はっきりとした返事、挨拶に感銘を受け、今後の学校生活で生かしたいといった内容が多かった。

参加生徒感想

「集団行動など、全員がそろっていて、声をだし、すごい一体感がありました。あんなことはできないけれど、周りを見る力や、部活で出せる一体感などは今からでも作れると思うので、いろんなところを取り入れて、自分たちが部活や学級を作っていけたらいいです。」(女子)

「発表中の声の大きさや動きに鳥肌がたった。上を目指している人のレベルの高さを感じた。メリハリがあり、きびきび動いていた。これらのことを山高に少しでも反映できたらなと思った。1年生がこの研修に参加したことの意味を捉え生かし、実行に移していきたい。」(男子)

- ・今後も実施する場合の交通費等の確保が課題である。

(5) 県立雫石高等学校

- ・海のない地域の生徒に海の楽しさを味わってもらい、また海で注意すべき点について考えてもらうことで、自分たちの町の資源である海の魅力、環境保護の大切さを再確認した。

- ・震災時に支援してくれた雫石高校生もおり、交流することで、感謝の気持ちを示すことができた。

- ・移動距離が長く、活動時間が限られる。冬には、本校が雫石高校の「雪上運動会」に参加する予定だったが、雪不足で取りやめた。天候に左右される行事である。

2 本校独自の復興教育

サマーチャレンジやまだ2018

- ・異年齢交流であり、参加する小学生だけでなく、講師役の高校生にとっても精神的に成長できる機会となっている。説明したり手本を示したりし、自己肯定感の涵養に繋がっている。

- ・町内の小学生を持つ保護者の方々に対して本校の生徒の様子を知ってもらう機会となっている。

- ・主に本校会場のボランティア活動のため、気軽に参加できる。これをきっかけにボランティア活動参加への機運を盛り上げたい。

- ・課題としては、夏休み期間中の開催による担当教諭の業務量の増加と、小学校と本校との学校行事との調整が難しい点があげられる。また、社会福祉協議会が引率するため、参加者する保護者の来校が減少傾向にある。